総合教育センターだより

# 街路樹

発行　第　７５　号
平成２５年　９月２５日（水）
いわき市総合教育センター
いわき市平字堂根町１－４
０２４６（２２）３７０５

## 教師用指導書の活用の留意点

新しい単元に入るときや1時間ごとの授業を考えるときに、教科書会社で発行している教師用指導書を頼りに、単元の概観や1単位時間の展開をとらえていると思います。

たしかに、教師用指導者は教材研究に欠かせないものです。また、教材研究をする時間が十分に確保できないときにも、教師用指導書を見れば、学習過程が明記されているのでとても便利です。

その上で、留意すべきこととして次の2つが挙げられます。

（1）「身につけさせたい力」を意識する。

教師用指導書の活用で多いのが、1単位時間の展開が書かれているページを見ることだと思います。そこには、「～できる」「～について理解する」といった「目標」や「ねらい」が書かれています。ここだけに注目してしまうと、知識・技能面を習得させればよいと思ってしまいます。もちろん、知識・技能は大切です。しかし、学習指導要領では、知識・技能を活用して思考力・判断力・表現力等を育成することを重視しています。知識・技能の習得という結果だけでなく、そこに至る過程も重視する必要があるのです。そのためには、「単元の目標」や「教材の解釈」などのページにも十分に目を通し、本時では何を身につけさせたいのかを明確にして、具体的な子どもの姿をイメージした評価項目を設定していくことが大切です。

（2）「目の前の子ども」「教師の願い」を加味する。

教師用指導書には、「あなたの学級の子ども」はいません。教師用指導書には、一般化され、平均化された子ども像があるだけです。あなたの目の前にいる個性豊かな十人十色の子どもたちの実態を踏まえなくてはなりません。だから、授業を行う際には、教師用指導書を参考に、目の前の子どもの実態と、そこから派生する「この子どもたちに・・・」という教師の願いを加味することが大切なのです。

参考：福島県授業改善研究会
『授業改善ハンドブック　授業をつくる16の視点』

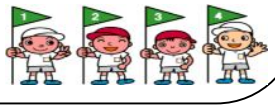
「よい授業をしたい」「子どもが意欲的に学習するような授業をしたい」「分かる授業をしたい」と誰もが願い、課題解決のために積極的に取り組まれていることと思います。教師の役割は重要です。

## 教育相談係から

磐越道で会津以遠へ車を走らせていると、長いトンネルの連続で出口が見えない不安を感じました。距離の長いトンネルでは途中に、「中間地点」「出口〇〇m」等の表示があり、ホッとします。

さて、学校での授業や諸活動の場面、発達検査の中でも、子どもたちは、出来るかな？などの不安な表情を浮かべ、自分の居場所を探しながら不安を増長させています。出口を探している子どもたちに「出口が見えたよ！ゴールは近いよ！」のエールを贈りたいものです。

出口（解決の方法等）や着地点を示してやるのが、大人の役目だと思っています。



## 特別支援教育から

～担任のプリントに救われた～

静岡県のシュンタ君（12）。文字がうまく書けない。漢字を読むのも苦手。でも、診断名はない。そんなシュンタ君を救ったのは小学校6年生の担任だった。母親が息子の特徴を伝えると、すぐに授業の仕方を変えてくれた。黒板は写せなくても理解力はある。担任は、授業のたびに要点をまとめたプリントを配ってくれた。全員に配ったので特別視されることもなかった。授業中、ノートをとれずに困っていると、そばに来て「ここが大事。ここだけ書けばいい。」とささやいてくれることもあった。学習のポイントがつかめ、勉強っておもしろいと思えてきた。

母は言う。

「いい先生に出会えるかどうかで、人生がまったく違ってくる。子どもって、環境で本当に変わるから」

朝日新聞（H25.5.16）「いま、子どもたちは学びたい⑥」より引用

全ての子どもたちが「学びたい」という気持ちを持っています。私たち教師は、その気持ちに寄り添い、学びやすい環境をつくってあげることが大切なのだと改めて感じさせられました。